肝癌免疫遺伝子治療ウイルスベクターの基礎的研究

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2021-05-27
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: Yamashita, Tatsuya
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00061112

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



Search Research Projects How to Use

♦ Back to previous page

肝癌免疫遺伝子治療ウイルスベクターの基礎的研究

Research Project

Project/Area Number 15790343

Research Category Grant-in-Aid for Young Scientists (B)

Allocation Type Single-year Grants

Research Field Gastroenterology

Research Institution Kanazawa University

Principal Investigator 山下 竜也 金沢大学, 医学部附属病院, 助手 (30334783)

Project Period (FY) 2003 - 2004

Project Status Completed (Fiscal Year 2004)

Budget Amount *help ¥3,500,000 (Direct Cost: ¥3,500,000)

Fiscal Year 2004: ¥1,500,000 (Direct Cost: ¥1,500,000) Fiscal Year 2003: ¥2,000,000 (Direct Cost: ¥2,000,000)

Keywords 遺伝子治療 / レンチウイルスペクター / 肝炎ウイルス / 慈遺伝子治療 / アデノウイルス / 単球走化因子(MCP-1) / レンチウイルス

Research Abstract 本年度はレンチウイルスに関する研究を中心に研究を進めた。HBVの表面蛋白を発現するベクターとしてS蛋白のS, M, Lに対応するベクターを作製した。HBV ウイルスではこれらの蛋白が一定の比率で表面蛋白を構成していることが知られているため、これらの蛋白の比率を変えて検討した。またHCVに関してはE12,

E1p7, E2, E2p7のそれぞれの組み合わせの共感染とE12,E1p7の単独感染にてウイルスを作製して検討した。またこれらの蛋白の発現についてはHBVに関しては市販のHBs抗体を用いたWestern blotを用い、HCVに関してはT7を10では

これらの系を用いレンチウイルスベクターを作製したがこれらのベクターでのレポーター遺伝子の発現は認められなかった.

今回検討したHBV, HCVいずれも培養細胞感染系が一般的ではなく,その検出感度も低いため培養細胞系への感染実験システムが確立されているダックB型肝炎ウイルス(DHBV)を用い検討した.HBVと同様にpreSとS蛋白を発現するベクターを作成して,その蛋白発現をウエスタンブロットにて確認した.その後ダック肝細胞の初代培養細胞を作製し,これらの細胞に作製したウイルス感染させluciferase assayにて検討した.コントロールのVSV-Gの表面蛋白を有するウイルスでは良好

な発現を確認できたが,DHBV S蛋白を表面に発現するウイルスとその組み合わせでは発現は確認できなかった.

これらの検討でレンチウイルスのパッケージを含めた更なる検討が必要であると考えられた.

Report (2 results)

2004 Annual Research Report

2003 Annual Research Report

URL: https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-15790343/

Published: 2003-03-31 Modified: 2016-04-21